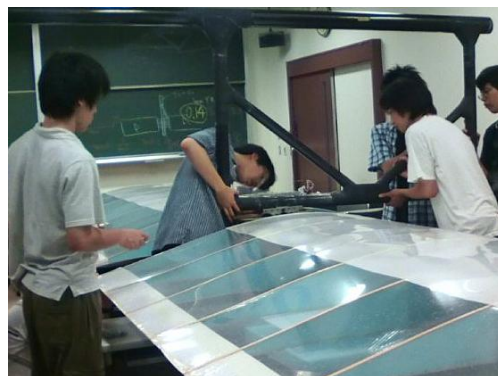


鳥人間コンテスト選手権大会 大会報告

2010 年度部長 機械工学科 50810037 大西圭

平成 22 年 7 月 24 日, 25 日, 滋賀県琵琶湖東岸において, 鳥人間コンテスト選手権大会 (以下鳥人間コンテスト) が開催されました. 昨年は鳥人間コンテストが諸事情により中止となり, 今年の鳥人間コンテストは 2 年越しの開催となりました. そのため, 各チームは時間をかけて工夫や努力を行ってきました. それは我々静岡大学ヒコーキ部も例外ではありません.

我々静岡大学ヒコーキ部には「常識突破」というチームコンセプトがあります. 「常識を突破して, 他と異なるものを作る!」という意味があります. 今回の飛行機も, この常識突破に基づいた形となっており, 他チームが制作していない形の飛行機となっています.



また, この二年間において我々は, 1 つの機体に専念して完成させるという方針で活動しました. 1 つの機体で多くの試験飛行をこなし, より高度な飛行機を制作しようとしたのです. 結果, 例年の 2 倍以上の試験飛行を行い, 多くの問題点の発見, その改良につとめることができました.



機体が完成したならば書類審査を受けます. 他にも審査はありますが, この書類審査に合格することで鳥人間コンテストに出場する権利を得るといっても過言ではありません. 倍率 2~3 倍といわれますが, 見事我々は合格を勝ち取ることができました.

書類審査で合格をいただいても飛行機の制作は怠りません. 細かな問題点を解消し, より良い飛行機を完成させ, 本番に臨みます.

本番前日, 飛行機の安全性とパイロットの体調の審査を受けます. 安全性の審査にて, 少々
の修正が必要とされましたが, 合格をいただく
ことができました. パイロットはいつも通りに
元気でした.





いよいよ本番のフライトです。我々が出場した人カプロペラ機ディスタンス部門は飛行距離を競いあいます。我々の飛行距離は15.09mでした。順位は最下位となってしまいました。

あまり誇れる結果ではありませんでしたが、この鳥人間コンテスト出場までに得た経験は非常に誇れるものであるといえます。非常に巨大なものを製作するという楽しさはもちろんのこと、完成するまでの試行錯誤の大変さ、精魂こめて制作した機体がうまく飛行できなかったという悔しさも我々にとっては大切なものです。



また、いかなる結果であれ、我々がここまで来ることができたのは、大学や先生、工作センターの方々、OBやその他サポートして下さるの方々のご支援のおかげと感謝しています。

今現在、我々静岡大学ヒコーキ部は今年度の飛行機の問題点を洗い出し、新体制として活動を始めています。新体制の彼らが新たに作り上げる「静岡大学ヒコーキ部」を、今後ともよろしくお願ひします。

静岡大学ヒコーキ部サイト : <http://suac.under.jp/>

